

2007年7月31日

日本地質学会 会長 木村 学

2007年度第2回理事会 議事録案

期 日：2007年7月14日（土）12:00～17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：木村会長，伊藤副会長，佃副会長，Wallis・上砂・狩野・公文・倉本・中山・久田・藤本・宮下・向山・矢島 各理事，
橋辺（事務局）

欠席理事（委任状）：渡部常務理事・天野副常務理事・斎藤理事（行事委員会のため）

* 成立員数(12/17)に対し，出席者14名，委任状3名，欠席者0名で，理事会は成立。

報 告

1. 運営財政部会（部会長-上砂，中山，向山，倉本）

総務委員会（委員長-上砂）

- ・ 大学評価・学位授与機構から，国立大学教育研究評価委員会専門委員候補者の推薦依頼に対し，評議員会に推薦を依頼したが，推薦者が出なかった。したがって理事会が候補者として下記の方々を選出し，本人の承諾を得て，機構へ推薦した。

達成状況評価委員 4名：井内美郎，北里 洋，大槻憲四郎，新妻信明

研究業績委員 5名：石渡 明，磯崎行雄，板谷徹丸，永広昌之，巽 好幸

- ・ 文科省より，平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学者賞受賞者の推薦があり，会員にもHP, News誌で広報したが，期限までに推薦等はなかった。前回理事会で決めた，柵山賞（小沢賞）受賞者を推薦することとして，メール審議で検討の結果，今年度柵山賞受賞者の青矢会員の推薦を決め，推薦書類を提出した。

今後の候補者推薦も，若手会員に機会を広げることとして，応募の広報をおこなう。

- ・ 日本鉱物科学会（岩鉱，鉱物両学会の合併）の設立記念式典（9月22日，14:00から東大山上会館）へは会長が出席する。
- ・ 総会後の役員選任の挨拶状

無機マテリアル学会：新会長 木野村暢一，日本原子力学会：新会長 河原 暉

地盤工学会：会長 龍岡文夫，三菱マテリアル(株)：社長 後藤貢，石油資源開発(株)：

社長 柵橋祐治，日鉱ホールディングス=ジャパンエナジー(株)：社長 松下功，(財)環

境地質科学研究所：会長 中山輝也 理事長 佐藤成昭

<他団体の賞の公募など>

- ・ 朝日新聞文化財団「朝日賞」の公募，8月31日締め切り → News誌，HPに掲載
- ・ 沖縄協会「第29回沖縄研究奨励賞」の公募，9月30日締め切り → News誌，HPに掲載
- ・ 女性科学者に明るい未来をの会「猿橋賞」の公募，11月30日締め切り → News誌，HPに掲載
- ・ 東レ科学振興会「東レ科学技術省」，「東レ科学技術研究助成」の公募，10月10日締め切り → News誌，HPに掲載
- ・ 発明協会「平成20年度全国発明表彰」の公募，9月7日締め切り → News誌，HPに掲載
- ・ 尾瀬保護財団「第11回尾瀬賞」の公募，10月31日締め切り → News誌，HPに掲載

<他団体の会合後援など>

- ・ 計測自動制御学会「第33回リモートセンシングシンポジウム」，11月8-9日，協賛依頼 → 例年通り承諾
- ・ 産総研「第8回地質調査情報センターシンポジウム」，7月25日，後援依頼 → 承諾
- ・ 地震学会・火山学会共催「第8回地震火山子供サマースクール」8月4-5日，協賛依頼 →

- 承諾，資料配布として箱根火山探検マップおよび箱根火山地質図の無料提供要請も承諾。
- ・朝日新聞社「第5回ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ2007(JSE2007)」平成19年6月-20年5月，後援依頼 → 例年通り承諾

会員関係（担当理事 中山）

- 1) 入会の承認 正(12名) 阿部 進 亀田 純 金 幸隆 近藤 玲介 境 智洋 酒井 利彰 新村太郎 田村明弘 永井 潤 吉田麻美 渡部路子 佐野 貴司
- 2) 院生割引(85名) 青柳大介 池田昌之 石原幸子 市來孝志 岩村里美 江川佳苗 遠藤俊祐 大友隆史 大場裕史 大森康孝 大谷麻美 梶 海彦 勝根 郷 勝部 亜矢 加藤暁之 加藤史恵 上條裕久 亀 聡実 北嶋亜以子 國光陽子 熊田祐子 小林今日子 駒田希充 齋藤華苗 阪上雅之 佐々木聡子 佐々木潤 佐藤伸明 椎根 大 志村崇 下郡裕之 菅沼香織 鈴木将治 鈴木隼人 清家一馬 高島紫野 高梨幸志郎 竹田知史 舘 良和 谷口圭輔 塚田 豊 鶴岡 昂 寺下陽三 東郷徹宏 戸邊勇人 鳥口能誠 中澤理久 中島由記子 中村圭助 南部拓未 二宮知美 野々垣進 林 圭一 原 勝宏 伴野卓磨 福田佳代 古橋恭子 真末裕志 水落裕之 溝口秀治 山口真喜子 山崎 亮 山田周作 山本修治 吉内佑佳 吉田昌幸 ラコナド[®] ラサ タラ ヲム 稲本雄介 尾崎かおり 馬淵しの 長谷川裕樹 島野恭史 酒井 亮太 小城志保子 永田 潤 星多恵子 馬場奈緒子 佐藤和也 井上朋香 ホース サカー 市川 博 コニヤギ[®] ウイタネ[®] ジョセフ 草野有紀 橋本瑛久
- 3) 準(9名) 加川泰久 西垣貴史 忽滑谷優里 山崎雄三 湯川達也 横幕早季 小安浩理 森谷 匡及川敦美
- 4) 退会(正13) 田中秀典 節田佑介 工藤高一 鈴木正義 塩野正道 佐治一郎 磯見 博 勝木厚成 狩俣 薫 塩見良三 佐藤 充 田島俊彦 三宅輝海
- 5) 逝去(名1, 正1) 大久保雅弘(6月10日) 立花 卓(2006年12月11日)
- 6) 6月末日会員数
賛助 34, 名誉 74, 正 4,331 (うち院 185), 準 29, 合計 4,468 (昨年比 -74)
- 7) 50年顕彰会員の追加承認: これまでのリストから漏れていた方、秋山雅彦名誉会員(55年)と山形 理会員(50年)を追加承認し、9月に顕彰することとした。
- 8) 会員名簿の発行準備中，印刷会社の選定，2社から見積もり提出。
- 9) 留学生会員は将来国際交流の橋渡しの役割を担うことになる、とくにアジア地域からの学生に対するケアを重視すべきということで、国際交流委員会に具体的な検討を要請した。

関連学会連合（担当理事 天野）

地球惑星科学連合（久田連絡委員）

- ・法人化を機軸に検討中。
- ・開催国（韓国）の都合により地学オリンピックの日程が早まり10月7日からとなった。オブザーバー参加者の人選も含めて改めて検討しなおすこととなった。

学術会議関係報告（木村会長＝連携会員）

- ・課題別委員会が活発になった、ポスドクのアンケートを行っているが、深刻な状況があまりかになりつつある。

会計関係（担当理事 向山）

- ・会員管理システム移行費用の支払いについては、予算上は半額を一括、半額をリースとしていたが、この支払い（基本ソフトおよび新システムへの移行・カスタマイズ）ではリースにするメリットがなく、全額一括払いとすることを検討し、承認された。
- ・国際賞の招待費用は、1名分の航空運賃および宿泊費として40万円を支出する。
- ・07年度支部補助費：総額（70万円）の6割を均等割(6万円)＋会員比率
北海道支部 73,900円，東北支部 78,900円，関東支部 171,100円，
中部支部 109,000円，近畿支部 94,400円，四国支部 71,900円，
西日本支部 100,800円

広報委員会(担当理事 倉本)

- ・行事委員会と検討し、札幌大会プレスリリーススケジュールを8月24日(金)に変更決定した。
- ・メルマガ geo-Flash 第1号(7/3)，臨時号(7/10)を配信。予定通り第2号を7/17に配信予定。

- ・ML リスト運用のためのシステム強化について
- ・記者発表マニュアルの制定
文科省の記者クラブに挨拶文、24日の札幌大会プレスリリースのこともアナウンスする。

ニュース誌編集小委員会(担当理事 倉本)

インターネット運営小委員会(委員長-坂口有人)

- ・Web上での入会申し込みを可能にする。申込書のフォーマットは紙送付とまったく同じ、紹介者は必須項目としない。ただし、院生会費の確認は、事務局から紹介者に対し確認を取る。

2. 学術研究部会(部会長-公文,)

行事委員会(斎藤委員長)

- ・7月7日行事委員会を開催し、プログラム編成を中心に札幌大会について検討審議した。
- ・札幌大会の最終発表申し込み数は、シンポジウム(13題):116件、一般発表:491件(口頭418件、ポスター239件)、合計657件
- ・受賞者記念講演は、学会賞の磯崎氏、国際賞のGreen氏、記念スピーチは青矢氏で行う。時間としては、授与式を含めて6時まで完了。
- ・大会ポスター、公開講演会チラシなどの作成
- ・札幌大会見学旅行案内者(保柳会員ら)、夕張市教育委員会の要請を受けて、9月12日に夕張市において会長講演を行う。これを年会関連行事とする。
- ・就職支援プログラムの内容を全地連との間で決定。北大キャリアセンターに後援申請、学内に対する広報の支援を受けることができる。
- ・同窓会について

専門部会連絡委員会

国際交流委員会(公文 国際特任理事)

*IYPEについて

- ・IYPEのオープニングセレモニーを08年2月パリで行う。学生対象のイベントに対し、日本からも5~6名の参加要請があるので、公募して選出する。
- ・学会独自の事業を行うことを検討。特別に企画せずとも、差しあたっては年会行事のうち適当と思われるシンポジウムに冠をつける、年会会場づくりにおいてもIYPEを宣伝するよう工夫する、プレスリリースでもIYPEを宣伝する。

南極地質研究委員会(委員長-廣井美邦)

地質環境の長期安定性に関する委員会(委員長-吉田英一)

3. 編集出版部会(部会長-狩野, 久田, 宮下, Wallis)

地質学雑誌編集委員会(委員長-狩野 副委員長-久田, 宮下=企画担当)

- ・今月の編集状況は以下の通りです(7月13日現在)。
113-7:特集号 紀伊半島 総説1・論説7・口絵1(106p・校正中)
113-8:準備中
- ・2007年度投稿論文総数43編[論説27(和文27), 総説7(和文7), 短報8(和文7 欧文1), ノート1(和文1)]口絵5(和文3 欧文2) ※うち30件(70%)が電子投稿
- ・投稿数昨年比 -13 査読中43編 受理済み 8編

Island arc 編集委員会(担当理事 Wallis, 事務局長 竹内圭史・角替敏昭)

1. 編集状況

2007年16巻の年間契約ページ数576(~最大620)p

1号Pictorial1編, 特集6編, 一般8編. 210p. 18年度では計画540pに対し537p.

2号 一般7編. 108p. 6月発行済み.

3号フィリピン海特集7編, 一般5編. 6月27日入稿, 9月下旬発行予定. 170p見込
一般3編はOnline Earlyで公開中.

4号 手持ち原稿Pictorial1編, 一般7編あり.

年間残り88pでは不足で, 2008年から12p程度の前借りを検討中.

2. 特集

フィリピン海特集：Guest Editors 小原・徳山・Stern

全 11 編のうち 7 編を 3 号掲載。残り 4 編は後日一般として掲載する。

板谷特集：G E 板谷・Sajeev・Wallis

6 編受付済み，7-8 編見込み。17-1 号を予定。

久田特集：G E 久田・Yumul (IGCP 516)

全 24 編受付済み。17-4 号・18-1 号分割掲載を予定。

HKT(ヒマラヤ)特集：G E Wallis・Aitchison

07 年 5 月集会の特集，全 20 編超。掲載は 18-3 号以降になる。

08 年集会の特集の打診も来ている。

3. オンライン投稿

07 年 6 ヶ月で新規投稿 65 編（特集 10 + 6 + 24 編，一般 22 編，口絵 3 編）。

一般に限っても原稿過多になってきており，需給調整策が必要。

- ・06 年のインパクトファクターが下がった (1.2→0.76) が、掲載論文の内容等から来年は上がるとの予測がある。

Island arc 連絡調整委員会 (委員長 会田，担当理事 Wallis)

企画出版委員会 (担当理事 藤本)

- ・箱根リーフレットは，業者 (タブチ・クリエイションズ) を通じて神奈川県博および箱根の 6 施設でリサーチ販売 (委託) をすることとなった。会計と相談の上，販売価格は 300 円，委託価格 (卸) は販売価格の 5 割とした。夏休み前に店頭と並ぶよう，とりあえず 100 部を送付した。
- ・今後のリーフレットなどの企画出版については，上高地を進める準備をする。
- ・地学読本刊行小委員会報告 (原田憲一委員長)
9 月の年会には，目次，表紙見本等を展示できるようにする。

4. 普及教育事業部会 (部会長-矢島，藤本)

- ・国際地学オリンピックへのオブザーバー参加教員 1 名を地質学会から選出するよう，連合地学オリンピック小委員会から要請があった。
地学教育委員会で検討のうえ，香東卓郎会員 (独協埼玉中高等学校) を推薦することとした。ただし，開催日変更に伴い参加者側の変更も見込まれる。
- ・東北大学大槻会員より高校理科総合 A，理科総合 B の開講状況についてアンケートした結果と，世界史未履修と同様の問題が起こっていることについて，地質学会として適切に対処するよう要望書が届いた。
この件に関しては，要望されていることはすでに周知のことであり，現状では，今問題化しても状況が良くなることはない。学会として，大きく取り上げる必要性を認めない。
- ・札幌大会の教育事業について，札幌市内の小中学校および札幌周辺の高等学校にポスターやお知らせのチラシを配布した。

地学教育委員会 (委員長-阿部国広)

- ・地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」

7/7 教育課程小委員会開催，矢島・藤本出席，藤本理事より報告があった。

生涯教育委員会 (委員長-柴 正博)

地質基準委員会 (委員長-新妻信明)

地層名委員会 (委員長-天野)

5. その他

支部長連絡会議 (担当理事 伊藤)

- ・6 月 23 日に支部長会議を開催した。支部長は全員の参加を得た。

- ・大槻支部長より、2010年以降における支部回り持ちの年会開催の是非について検討依頼があった。12月評議員会で2010年以降の開催方式を決定する予定。

地質災害委員会（担当理事 天野）

JABEE委員会（委員長一）

技術者継続教育委員会（PDE）（委員長一公文）

ジオパーク推進委員会（担当理事， 佃委員長）

- ・正式な国内委員会が発足にあたり、地質学会から委員1名を出す。国際交流委員会で選出する。
- ・地質百選（GUPI, 全地連）については、各地から大きな反響があったことが矢島理事より報告され、学会員としても主体的な関わりを持ってほしいと期待された。

【以下、評議員会の下委員会】

名誉会員推薦委員会（伊藤副会長）

各賞選考委員会（委員長 安藤寿男）

女性地球科学者の未来を考える委員会（委員長一大友幸子）

法人化実行委員会（委員長一齊藤靖二）

法務委員会（担当理事：委員長 上砂）

- ・倫理規定策定委員会（委員長一松本 良）

オンライン化委員会（委員長 齊藤 眞）

地質学史アーカイブス委員会（委員長 会田信行）

- ・委員会活動報告があった。

選挙管理委員会

6. 4 役会議審議内容

<次回以降の理事会開催予定>

8月は定例の開催はありません。

07年9月8日（土） 13:00-14:00

07年9月8日（土） 14:00-17:00 北大構内

○審議事項

1. 札幌大会準備（国際賞関連事業含む）など
プレスリリース等ではIYPE事業，ジオパークについても広報をおこなう。また，アジアとの積極的な交流も視野に入れて今後の大会運営をおこなう。秋田大会には，韓国からの招請を実現する。
2. 各賞選考過程について
酒井前委員長から、審議の中間報告があった。委員会審議が長引くと次年度の選考に反映させることが難しくなる。現状での問題点を整理、把握して理事会としての具体案を作成することとし、担当は宮下理事とする。
3. アイランドアーク関係
 - 1) 編集委員長2名の交代申し入れ
発行にあわせて、2007年12月で退任とし、2008年1月から新委員長の就任とする。
新委員長候補には、現委員長から打診していただくこととした。
 - 2) 雑誌総ページ数に比して投稿原稿が増加傾向にあり、論文の滞りを解消するため
論文は制限ページを20ページから15ページに、Reviewは無制限を20ページとする。

超過した場合はページあたり 15,000 円とする。学会と BP 社間の契約ページを 576 ページから 600 ページに増やすことを編集委員会として提案する、ことを了承した

3) アイランドアーク出版元乗り換えの可能性について

編集長宛に他出版社から打診があり、可能性のひとつとして、また、契約更新の交渉手段とするためにも話を聞いてみる価値はある。12月の評議員会までにとりあえず相手の会社と情報交換し検討を進める。

4. その他

1) 08年度役員選挙のための選挙管理委員

前年度の委員で継続可能な方 加藤潔（早大）、西村瑞恵（石油資源）
継続2名を除く新委員候補者3名を選出する必要がある。理事は各自心あたりを打診し、候補者の推薦をすることとした。

2) 支部回り持ちの年会開催について

大槻東北支部長より、昨今の大学事情等では支部持ち回りの開催は非常に負担が大きい。持ち回りをやめて開催場所を固定化すべきとの提案と検討依頼があった。

固定化しても、何らかの会員相互の負担やボランティアは必要であり、イベント屋だけに任せられるわけではない。また、持ち回りをすることによる先端的学問への関わりや地域貢献、コミュニティの力を結集する機会ができるなど、負担もあるがそれなりのメリットがうまれる。支部負担の軽減方式などを提示の上12月の評議員会において、5地域持ち回り開催の継続を確認する。

3) 07-2(9/8, 札幌 北大) 評議員会議題

1. 各賞選考について
2. 秋田大会について
3. 情報システムの今後
4. その他

5. HPへの記事掲載について

社会的関心のある記事については、個人的見解が学会の見解であると誤解を招くことのないように配慮する。掲載記事は広報委員会などの複数チェックを経て掲載するようにする。

6. 評議員会等開催今後の予定確認

第3回 理事会 2007年9月8日(土) 13時~14時 北大 高等教育機能開発
総合センター E204室

第2回 評議員会 2007年9月8日(土) 14時~17時 北大 高等教育機能開
発総合センター E204室

第3回 評議員会 2007年12月15日(土) 13時 東京 北とぴあ 決定

第4回 評議員会 2008年4月初旬日(土) 東京 日程未定

総会 2008年5月25日(日) 17~19時 幕張メッセ 予定

以上

議事録署名人

印

印